

CALNAは、医療の未来と 医師の使命を支える教育の仕組み

若林 俊彦

献体を用いた
医師の教育・研究プログラム
研究責任者

クリニカルアナトミーラボ名古屋 の設立

2014年に設立された「クリニカルアナトミーラボ名古屋」(Clinical Anatomy Lab NAGOYA: CALNA(カルナ))は、名古屋大学大学院医学系研究科において、本学に献体されたご遺体を医学生への解剖実習のみならず、医師の教育・研究に利用するための施設です。医療の進歩に伴い高度化する手術手技の修練をはじめ、新しいアプローチの研究を目的としています。脳神経外科医として多くの患者さんを診察していますが、脳の形は人それぞれであり、困難な手術を間違いなく完遂するためには一つでも多くの経験を積む必要があると強く感じています。複雑な手術手技を短期間で修得し、疾患に対する新しい知見やアプローチを最新の視

点で確認したいと考えるのは医師として当然です。それは手術を受ける患者さんの安全性に直結します。海外では献体を用いて高度な臨床解剖を学び、手術・検査技術を修練し、新たな手術手技を研究開発できる教育施設が存在が一般的ですが、日本ではほとんどありません。そのため、これまで多くの日本の医師は海外へ渡り、自ら機会を得る努力をしてきました。

本学でそのような教育施設の立ち上げを求める声があがったのは若手の医師からでした。それは彼らに医師としての「次の一歩に行く」使命感があるがゆえです。

2014年4月30日に第1回準備委員会を開催。その後、医学系研究科長、病院長、解剖学3教室教授の強力なバックアップを受け、設立に向けての環境整備を開始。設立当初の脳神経外科学、整形外科、手の外科学、形成外科学、耳鼻咽喉科学の臨床5科のほか、総計20数科が賛同し、CALNA設立の道が開かれました。本学の臨床系講座と解剖学講座を中心とし、篤志献体組織「不

老会」の多くの方のご理解を得て、医学の発展と医療の安全のために、今まさに一歩を踏み出そうとしているところです。

充実した設備・環境のもと行われる CALNAのプログラム

2014年に新設された医系研究棟3号館にある小解剖実習室の存在もCALNAのプログラムを充実させる一因となっています。少人数での解剖教育や研究・研修を行うために設置された小解剖実習室には、8台の実習台が設置され、大解剖室と同様の設備が整っています。

現在、CALNAの利用対象者は本学の学生・医師等を対象としていますが、いずれは学外者の利用も可能にしたいと考えています。本学の取り組みが、医師のスキルアップ、医学のさらなる発展へとつながることを期待します。

組織概要

名古屋大学に献体されたご遺体を医師等の教育・研究に利用するための施設として、2014年設立。解剖学教室教授あるいは准教授の指導(あるいは死体解剖資格保有者の管理)のもと、本学の学生・研究生・医師および医療従事者の臨床解剖学的知識の向上および手術・検査手技向上のための教育並びに研究を行う。



事前に行われたシミュレーションの様子



小解剖実習室



小解剖実習室が入る医系研究棟3号館

PROFILE

WAKABAYASHI, Toshihiko
若林 俊彦

1954年生まれ。名古屋大学大学院医学研究科博士課程修了。医学博士。名古屋大学大学院医学系研究科総合医学専攻教授・副研究科長。専門分野は脳神経外科学。

